

座長：高橋 宏和（佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター）

共催：日本イーライリリー株式会社 / 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

ML 診察室というブラックボックス ～データで見る患者さんとのコミュニケーション～

大橋 健

国立がん研究センター中央病院 総合内科（糖尿病腫瘍科）

グルコースモニタリングシステムの進歩によって血糖変動に関する膨大なデータを取得することが可能となり、Time in Range (TIR)やGlucose Management Indicator (GMI)などの新たな臨床指標が提示されています。また、スマートフォンの普及やウェアラブル・デバイスの発達は、食事内容や身体活動量、睡眠サイクルなどさまざまな生活習慣についても「見える化」を可能にしようとしています。テクノロジーの進歩によって得られるさまざまな情報は、診察室での患者さんとの対話のあり方や内容にも影響を与えているはずです。

しかし、日常の診察室でのやりとりがデータ化や客観的評価の対象になることはなかなかありません。患者さんとのコミュニケーションがさまざまなアウトカムに影響することが知られているにもかかわらずです。このままでは、診察室は、データ化・デジタル化の時代の中で最後のブラックボックスになりかねません。

今回は、診察室でのコミュニケーションについてその実態や患者アウトカムとの関連についてのこれまでの興味深い報告を紹介しつつ、診察室をブラックボックスにしないための方策を先生方と考えてみたいと思います。また、米国糖尿病学会・米国糖尿病療養指導士協会による“The Use of Language in Diabetes Care and Education” (Diabetes Care 40:1790-99, 2017)の提言を参照しながら、私たちが糖尿病診療で用いる「言葉」についても振り返ることができればと考えています。朝早い時間帯ですがどうぞお付き合い下さい。

略 歴

1992年 東京大学医学部卒業

1999年 東京大学大学院医学系研究科 修了 医学博士

1999年 東京大学医学部附属病院糖尿病・代謝内科 医員

2003年 同 助手

2007年 同 特任講師（病院）

2010年 国立がん研究センター中央病院総合内科 科長

現在に至る